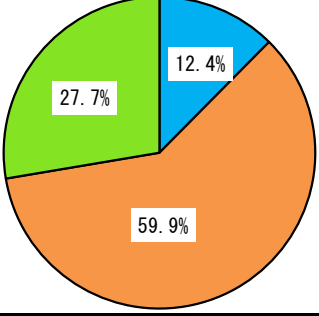


1. 対象となる町丁区（地区面積　約8.51km ² ）						
小字名	世帯総数	総人口	男人口	女人口	1世帯あたり人員	備考
横須賀	315世帯	910人	462人	448人	2.9人/世帯	住民基本台帳 H26.4.1現在
高	486世帯	1,284人	617人	667人	2.6人/世帯	
蕪里	239世帯	688人	331人	357人	2.9人/世帯	
高野	191世帯	513人	257人	256人	2.7人/世帯	
みどり平	3世帯	4人	0人	4人	1.3人/世帯	
合　　計	1,234世帯	3,399人	1,667人	1,732人	2.8人/世帯	

2. 居住者に関する指標：児童人口　0歳～14歳　労働人口　15歳～64歳　高齢者人口　65歳以上						
地　　区	人　　口	3,399人				
人　　口	密　　度	399.4人/km ²				
世　　帯	密　　度	145.0世帯/km ²				
年少人口（児童人口）	422人	12.4%	■児童人口■労働人口■高齢者人口 			
労働者人口（労働人口）	2,037人	59.9%				
老年人口（高齢者人口）	940人	27.7%				
総　　人　　口	3,399人					
高　　齢　　化　　率		27.7%				
要援護者台帳登録者数	75人					
要援護者支援者登録者数	46人					
支援者がいない要援護者の数	47人					
支援者がいない要援護者の割合		62.7%				

3. 公園						
公園名称	種別	供用面積	公園名称	種別	供用面積	
みどり平西公園	都市公園	1,411m ²				
みどり平中公園	都市公園	1,411m ²				
みどり平西公園	都市公園	10,790m ²				
小舟内公園	都市公園	130m ²				

4. 危険箇所、危険物施設の現況：土砂災害警戒区域、急傾斜地崩壊危険区域、土砂災害危険箇所、河川・津波浸水被害想定区域・危険物施設等		
1　危険物施設等		
製造所・屋内タンク貯蔵所・地下タンク貯蔵所・		
移動タンク貯蔵所・屋外貯蔵所	28箇所	
給油取扱所・一般取扱所	7箇所	
その他：		

5. 避難所・避難場所		
名称	所在地	電話番号
指定避難所（一次避難所）		
須賀小学校	高1956番地	72-0476
	指定避難所（一次避難所）数	1箇所
指定避難所（二次避難所）		
	指定避難所（二次避難所）数	0箇所
指定緊急避難場所		
みどり平東公園	みどり平13番地2	なし
みどり平西公園	みどり平1番地2	なし
	指定緊急避難場所数	2箇所

※全ての「指定避難所（一次避難所）」が「指定緊急避難場所」を兼ねています。

6. 医療機関			
医療機関名	所在地	電話番号	診療科目
かわて医院	横須賀2815番地2	72-3000	小児科

7. 建物の状況：総数については建築年不明を含む 内訳数については建築年が判明しているもののみ集計				
構造	総数	S56年6月以前	～H12年6月	～H25年3月
木造	2,421	810	827	248
非 木 造	1-2F	570	189	271
	3-5F	5	0	4
	6F以上	0	0	0
総数	2,996	999	1,102	340

8. 既往災害の履歴：（平成23年3月11日の東日本大震災～）		H28.1月現在
時期	事項	
H23.3.11	東日本大震災　住家　一部損壊（107棟） 非住家　一部損壊（32棟）	
H23.9.21	大雨・洪水・暴風・波浪警報　停電（高・高野の一部）及び倒木等（高　2件）	
H25.10.15・16	台風26号　道路への倒木（1件）　冠水（1件）	
H26.10.5・6	台風18号　道路への倒木（2件）　停電（横須賀・高・蕪里の一部）	

9. 防災上の課題・留意事項等	
【防災上の課題】	
1　須賀地区は集落が分散しているため、避難所・避難場所まで距離がある集落については自主防災会等で安全な箇所を確認しておくことが重要である。	
2　東日本大震災において、建物の損壊があったため、建物の耐震化や室内における強い揺れへの対策を行うとともに発災時の避難行動等について確認しておくことが重要である。	
3　中央地区の南に位置し、平野部が中心で田畑が広がっている。土砂災害警戒区域等に指定されている箇所がないため崖崩れの危険性は低い。	
【留意事項等】	
1　自主防災組織はどのような活動を行うか考え、年間の活動計画を立てることが大切である。主な活動内容は自主防災訓練の実施、市の防災訓練の参加等があるが、その活動計画の中に地域の避難路等の安全確認を組み入れる。	
2　地震対策としては、昭和56年5月末以前に着工された住宅やアパートは耐震性が低い可能性があるため、耐震補強工事を行う。	
3　室内の地震対策としては、家具に転倒防止器具を取付け固定することや、ガラスが割れても飛散しない防止フィルムをガラス面に貼る。	
4　避難時はヘルメットや頭巾等（ない場合は手荷物やカバン）で頭を保護し、あらかじめ準備した災害用備蓄品を持って履きなれた運動靴で迅速に避難する。	

ハザードマップ

